入選

岩本　奈月（いわもと　なつき）　清水小　６年生

作品名:「本当」の意味
図　書:窓ぎわのトットちゃん

「君は、本当は、いい子なんだよ。」
この言葉は、「窓ぎわのトットちゃん」の登場人物の校長先生がずっとトットちゃんに言い続けた言葉です。
この、「窓ぎわのトットちゃん」は、一九八一年、黒柳徹子さんがご自身の体験を本にした、ノンフィクションの作品です。私が、この本に出会ったのは、四年生の時でした。先生が毎日、二、三話ずつ読んで下さったからです。最初はみんな、中途半端な気持ちで聞いていました。でも、聞いているうちに、どんどんおもしろくなって、次第にみんな耳をすませて聞く様になりました。こうして私は、存在すら知らなかった、この本の面白さを実感したのでした。
この本は、第二次世界大戦のころの実際にあったお話です。ある、学校と、その学校に通う子供達のお話で、今はもう無いと思われる、ユニークな教育の仕方の学校です。
私が一番おどろいたのは、子供達の様子です。なぜなら、戦争中でありながらも、子供の一人一人が笑顔に満ちあふれていたからです。私だったら、きっと、怖くて、笑顔でいることすら、むずかしいかもしれません。だから、私は、本に出てくる、子供達のことをすごいと思います。
そして、私が何よりも心に残ったのが、小林校長先生の言葉、「君は、本当は、いい子なんだよ」です。お気づきでしょうか、「本当は」に意味があるとうことを・・・。
黒柳さんは、
「いい子じゃないと人に思われているところがいろいろあるけど、本当は、いいところがたくさんあることを、校長先生は、よくわかっている」
ということを伝えたかったのではないかと思っているそうです。私も、「本当は」の意味を考えてみました。
きっと、トットちゃんは、誤解されやすいのではないかと思います。でも、それは、トットちゃんが悪い訳ではなくて、トットちゃんのことを、「あの子はいい子じゃない」と思う人に責任があると、私は思います。トットちゃんのことを、「いい子じゃない」と決めつけるのではなく、どういう子なのか、きちんと見極める必要があると思います。
私は、この本を読んで、戦争の怖さを学びました。それから、どんなときでも笑

顔でいる子供達に元気づけられました。
　そして、「本当は」の意味。この本当の意味は、小林校長先生、ご本人に聞くしかありません。でも、ご本人は、残念ながら亡くなってしまったそうなので、迷宮入りですね。
　私は、この本を読んで、新たな目標ができました。それは、笑顔でいることです。そして、周りの人も笑顔にできる人になりたいです。